

建設業が行う地域貢献の一事例（屋内土木公園カルバートパーク）

株式会社加藤建設 正会員 ○加藤 徹
株式会社加藤建設 清水 正志
株式会社加藤建設 石濱 謙一

1. はじめに

株式会社加藤建設は土木請負業として明治 45 年に愛知県海部郡蟹江町の地にて創業。蟹江町は愛知県南西部の濃尾平野にありその大部分が海拔ゼロメートルという特徴を持つ。この水害と隣り合わせの地におけるインフラ整備を担うことで当社は地域の発展とともに歩んできた。

創業 110 年を 2022 年に迎えるにあたり昭和 46 年の社屋移転（移転先蟹江町地内）により使われなくなっていた創業地（600 ㎡）を整備することとなった。

2. 方法

整備にあたっては次の 2 つの点について留意した。一つは憩いの空間となるなど地域の方々にとって有用な場所とすること。もう一つは来ていただいた人に土木を身近に感じていただけること。このコンセプトに対して中部地区における行政・市民・企業を巻き込んだ街づくり推進で著名な建築家伊藤孝紀氏にご賛同いただき、同氏の（有）タイプエービーに企画から設計までお力添えいただくこととなった。

まず初めに施設を利用していただくメインのターゲットとして未就学児をかかえる子育て層に的を絞ることとした。地方都市における諸問題は多岐にわたるが、中でも未来を担う子どもたちが健全に成長できる街づくりは重要な課題であると位置づけた。その後議論を重ね、ターゲットの子育て層が望むことと 2 つの整備コンセプトのどちらも満足するものとして、「屋根のある土木公園」を創出することとなった。

雨の日でも猛暑の時でも安心して遊ぶことのできる「屋内土木公園」の具現化案として、ほぼ敷地全面に広がる巨大な砂場や海岸をモチーフにしたテラス再現などの案が示されたが、最終的に様々なインフラ整備の現場で暮らしを支えているボックスカルバートに直接触れていただくことができる「カルバートパーク」案が採用となった。ボックスカルバートを施設のシンボルとして置き、さらに子育て世代の方々にとって使い勝手の良いものにするため地元地域の NPO 法人「にこにこママネットワーク」から意見集約し、コインランドリー、パン屋などを施設内に置くこととした。

3. 結果

2020 年 8 月に設計が出来上がりその後工事着工、2021 年 11 月オープンに至った。（図 1）。施設は 2 階建てでエントランスからの吹き抜け部分に 3 タイプの実物のボックスカルバートを設置。触れていただくことはもちろんのこと、砂場、人工芝広場、コインランドリー、ベーカリーなどの仕切りの役割ももたせた。（図 2）。またデジタルサイネージによる工事現場や会社の紹介、ミニチュア建設機械模型を展示（図 3）するなど建設業への関心を深めていただく工夫も各所にちりばめた。火曜日から土曜日の 9 時から 16 時まで開館、入場無料でどなたでも出入り自由にご利用いただける。



図 1 外観

キーワード カルバートパーク、屋内土木公園、蟹江町、創業地活用、地域貢献
連絡先 〒497-0044 愛知県海部郡蟹江町蟹江新田下市場 19-1
(株) 加藤建設 TEL0567-95-2181

オープン以来約1年半、幼稚園未就学と思われる4歳くらいまでのお子様を連れてご家族層を中心に、様々な年齢層の方々に来場いただいております創業地に賑わいを創出いただいている。またインフラを支える構造物の一つであるカルバートに触れて身近に感じていただくことで土木への理解がゆっくりと進むことも期待される。

2022年には建築のグッドデザイン賞、第16回キッズデザイン賞、日本空間デザイン賞銅賞、全国建設業協会の社会貢献功労者表彰を受賞した。

4. 考察

今回の創業地整備は地域の方々に喜んでいただけるものとするというテーマを持って進めた。オープン後に実施したアンケートによると来場理由として子供たちの遊び場やパン屋の利用が多いことがわかった。(グラフ1)。モニュメントや説明看板の設置だけでは閑散としてしまっていたと思われる創業地に毎日の賑わいをもたらしてくれることとなった。

また、カルバートやデジタルサイネージ、模型など施設内に凝らした様々な工夫でこれまで土木にさほど関心を持っていなかった方々にも土木を身近に感じていただけていることもわかった。

地域建設業の多くはそれぞれの地元に根ざした社屋や資機材、重機置き場などを保有している。利用についてはそれぞれ各社の使い勝手の良さが優先されるのは当然ではあるが、そこに地域の皆さんに喜んでいただくという視点からの工夫を加えることで地域づくりに貢献でき、その姿勢が会社の信用さらには建設業のイメージアップ、担い手の育成などにつながっていくことが期待できる。

5. まとめ

今回は創業地を就学前の小さなお子さん向けに整備したが、今後は6年前に創りはじめた地域の生き物を守るためのビオトープを学校の野外学習などに利用しやすくなるように充実させていきSDGsに興味を持つ小中学生向けに整備、さらに重機置場を外部から間近にその姿や整備状況を見学いただけるように見せ方の工夫を凝らし、さらに操作体験を実施するなど中高生向けに整備を考えていきたい。

それぞれが揃うと地域の幅広い年代の子どもたちに向けての地域建設業としての貢献が実現できると考える。

6. おわりに

創業地を地域の役に立つ施設としたいという相談に快く賛同いただき約5年にもわたって一緒に考えていただいた伊藤先生をはじめとする(有)タイプエービーの皆様、子育て世代の皆さんの悩みや本当に欲しいものを分かり易く丁寧に伝えていただいたNPO法人「にこにこママネットワーク」の皆様、そして何よりわが社の創業の地に毎日のように賑わいをもたらしてくれている地域の子育て世代及びそのお子さまたちに心より感謝申し上げます。

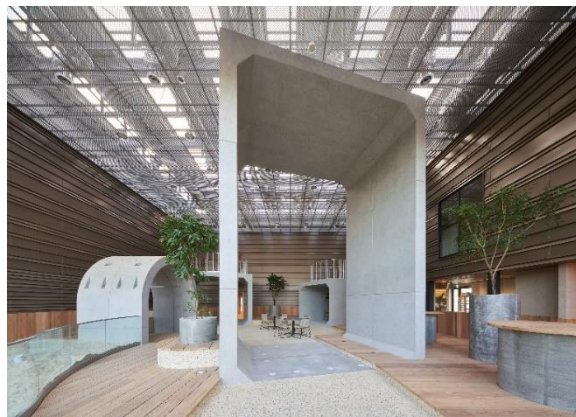
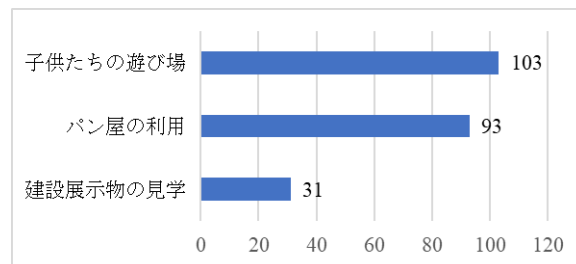


図2 内観



図3 重機模型展示



グラフ1 来場理由アンケート上位3項目